

# 創造

JA いけだ  
CREATION

今月の表紙写真は、11月26日（火）～29日（金）の3泊4日で行われた部会長研修での集合写真です。詳しくは6～7ページをご覧ください。



## CONTENTS

- ※平成26年の新春を迎えて
- ※平成26年の年頭にあたり
- ※平成25年産豆類生産状況
- ※平成25年度部会長研修報告
- ※青果物説明会を開催！
- ※21NEWS アラカルト
- ※今冬、ご家庭でも節電を！
- ※畜産部通信
- ※各部署職員紹介
- ※今月の1枚
- ※理事会の動き
- ※編集後記

2014.

JANUARY

No.049



# 平成26年の新春を迎えて

十勝池田町農業協同組合

代表理事組合長 鈴木雅博

平成26年の新春を迎え組合員の皆様はじめご家族の皆様にご挨拶を申し上げます。また、農協事業に深いご理解とご協力を戴き御礼申し上げます。

昨年平成25年は、春作業時の降雨量が多く植え付け、播種などに影響がありました。また6月以降の少雨、秋の台風、10月には降雪もあり平年の2倍以上の降雨量となり、播種時期から収穫期まで苦労の多い年でありました。そのような気象条件下において、

高品質な小麦収穫、取引先から望まれる豆類や、高い評価を戴いております根張星をはじめとする蔬菜栽培に努力されました組合員各位に敬意を表します。畜産部門においても雨天により自給飼料の確保に苦労された年でありました。黒毛繁殖牛不足のため素牛が高騰しておりますが、特に池田町生産牛には高い評価があ

ります。また地域団体商標に登録された「池田牛」の地場消費や加工品販売など、畑作・畜産ともに池田町ブランドが認められている事を実感できる年でもありました。作物収穫時、畜産市場出荷等、地域や部会組合員のご協力と連携があった事に対しまして御礼と感謝を申し上げます。

地域を揺るがすTPP交渉につきましても昨年3月の参加表明以降、関係機関と連携をとりながら反対運動を展開してまいりました。昨年の妥結は断念されましたが、情報開示が不十分で予断を許さない状況が続いております。衆参農林水産委員会の決議を遵守し国益が守られない交渉なら脱退も辞さない覚悟のもと対応がなされるよう、今後も国民世論を巻き込んだ運動が必要であります。

日本はバブル崩壊以降、失われた20年とも言われ、新し

い時代への対応を迫られてい

ます。2006年に小泉内閣が終わって以来、総理大臣が毎年替わる異常な事態が続きました。支持率が下がれば総理を代え、重要な担当大臣も代わり、政策よりも政局が中心の短期的な政権運営が続きました。日本の将来ビジョンを長期的に考える事もなく過ぎて来た様に思います。農政においても猫の目政策では永続的な地域農業の発展を望むことに不安を感じます。政府は今後10年間で農業・農村の所得倍増を目指す農政の大転換を決め、担い手に農地を集積する農地中間管理機構の整備、米政策を含めた経営所得安定対策の見直しを示しました。少子高齢化のすすむ日本の中で農業・農村は急激な高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増大など課題が山積み、

対応の必要性は誰もが認めるところであります。しかし、

全国一律の農業政策にも問題があり、また規制改革会議・産業競争力会議などの委員には企業や自社の利益を優先するようなメンバーも含まれています。御用学者や財界主導ではなく北海道・十勝の農業生産現場に適合した政策が必要であります。

新自由主義という市場原理主義により格差の拡大や地域社会の疲弊、社会不安が問題となりました。東日本大震災のあと「助け合い」や「絆」という価値観の大切さを再認識することが求められています。昨年は伊勢神宮において20年ごとに行われる第62回目の式年遷宮の年でありました。歴史に学び国や郷土、地域の成り立ちを振り返り、次世代につなぐ活動が必要であります。「相互扶助の精神」という理念を掲げた農業協同組合が誕生して65年が過ぎました。その間に経済ではグローバル化が進み、地域では人の交わりも希薄になったと言われております。二宮尊徳翁の報徳の教えに「道徳を忘れた経済は罪悪・経済を忘れた道徳は寝言だ」という夜話があります。また人々の心根にある「仁・義・礼・智・信」とい

う心の教えもあります。経済のグローバル化のなかで今後さらに強い農業を造るにしても、私たちが住む農村の良さを保つためには経済と精神の中庸を再考する事が大切だと思います。平成26年度は協同活動を担う人づくりも重点項目として取り組むつもりであります。変革期における農業の将来に、大きな懸念がある時こそ協同の力が必要であります。また「JA十勝池田町10年後のあるべき姿」を掲げた第6次地域振興計画（平成25年度～27年度）の実践、農協の事業評価制度（農協の通信簿）、年間3回開催されます地域懇談会、そして各生産部会において、さらには青年部、女性部との意見交換を含め人的な交流と相互理解、組合員各位の積極的な参加による事業目標の推進は大切な礎であります。今後とも農協事業に組合員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様のご健勝と流した汗が結ぶような豊稔の年となりますようご祈念申し上げます。新年の上げ、新年のご挨拶といた





# 平成26年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 飛田稔章

組合員並びにJA役職員の皆様方には、希望に満ちた平成26年の新春を迎えられますことを心よりお慶び申し上げます。昨年の北海道農業は、天候不順により一部地域で農作業や生育の遅れが生じ、台風や大雨等の被害にも見舞われました。そのような中、各種課題を克服しながら、一年間の営農にご尽力されたことに対して、改めて敬意を表します。

平成25年は、国内外ともに、まさに激動の年でありました。TPP交渉につきましては、3月の交渉参加表明以降、交渉参加反対のもとで、関係機関・団体と連携をはかりながら、各種運動を展開致しました。かねてより懸念していたとおり、情報開示が極めて不十分な中、秘密裏に交渉が進行し、予断を許さない不透明

な状況が続いておりますが、自民党並びに衆・参農林水産委員会の決議を順守し、状況によっては脱退も辞さない覚悟のもと、それぞれの国の事情に十分配慮した対応がなされるよう、政府・与党への強力な働きかけと併せ、国民世論形成に向け粘り強い運動を展開していく必要があります。

過般、政府は我が国農政の柱のひとつである米政策を大きく転換し、それに伴い各種助成金体系や経営所得安定対策の見直し、日本型直接支払制度の創設等がなされました。短兵急な政策転換に対して、生産現場では不安と混乱が渦巻いておりますが、改めて生産現場における取組み状況を十分検証しながら、生産者が意欲と将来展望を持って経営展開ができるよう、より実効性のある仕組みを確立してい

くことが重要であります。また、政府は成長戦略の実現に

向けて、農業・JA改革を課題のひとつに取り上げ、産業界の競争力会議や規制改革会議等において関連する議論を行っております。これら規制改革の動きに関しては、農業の役割や生産現場の実態に関する基本的な認識が十分でないことと大きな原因があり、北海道のような農業専業地帯の実情やJAグループの取組み状況等を十分踏まえた議論がなされ、本道農業の持続的発展に資するような政策が確立されるよう、働きかけを強化していく必要があります。

平成24年11月に開催した第27回JA北海道大会において、「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」について決議致しました。平成26年度は実践2年目にあ

たりますが、時代の変化を踏まえた中で、JAグループの組織・事業機能の充実強化に向けた自らの取組みを進めつつ、一般消費者に対する情報発信を行いながら、本道農業並びにJAの強力な応援団づくりを進めていくことが重要であります。

国内外の情勢がめまぐるしく変化している昨今でありますが、今一度足元を見つめ直し、生産者の方々をはじめJAグループ関係者の意志と知恵を結集した中で各種課題を乗り越えていくという強い信念と実行力が求められています。

現在の地域農業やJAの基盤を築いた我々の先人も、その時々の時代背景のもとで、さまざまな困難に立ち向かってきたものと存じます。当然のことながら、JA・連合会も「組合員の営農と生活を守り向上させる」という目的を踏まえ、最大限の努力を傾注していかねばなりません。さて、過般、日本の「和食」がユネスコ（国際教育科学文化機関）の世界無形文化遺産に登録される見通しであると

の動きがありました。我が国の食文化の素晴らしさが世界的にも認知されたわけですが、そのことは、素材である我が国の農畜産物が評価されたといっても過言ではなく、日本の食料供給基地である北海道の果たす役割も極めて大きなものがあると存じます。国民の命に直結する農業は、我々の先代が永きにわたり、労苦を惜しまず築き上げてきたものであり、その役割・重要性は将来にわたり、いささかも変わるものではありません。

農業は、国家百年の計に立つた中で、将来にわたり引き継いでいくべき重要な産業であり文化であります。

今年の干支は、午年（うまどし）です。予断を許さない情勢が続いておりますが、馬のごとく力強く、また、さっそうと駆け抜けていく気概をもって頑張りましょう。結びになりますが、本年が天候に恵まれ実り多い年となりますよう、併せて、北海道農業並びにJAグループ北海道の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

# 平成25年度産豆類生産状況

## 生育状況

播種は天候、圃場条件にも恵まれ、各品種とも順調に作業が進みました。しかし、播種後の5月下旬から6月上旬は降雨が少なく干ばつ傾向となったことから、特にいんげんを中心に発芽の不揃いが広く発生し、この生育差は収穫まで影響を残すこととなりました。出芽以降は高温で推移し

表1 平成25年度池田町作況ほの生育経過 (上段25年、下段平年)

作物	出芽始	出芽期	開花始	開花期	成熟期
大豆	5/30	6/01	7/17	7/19	10/01
	5/31	6/03	7/23	7/25	10/08
小豆	6/03	6/05	7/23	7/25	9/11
	6/05	6/06	7/28	7/30	9/17
金時	6/06	6/08	7/08	7/10	9/02
	6/09	6/11	7/14	7/16	9/05
手亡	6/02	6/04	7/17	7/19	9/08
	6/07	6/10	7/25	7/27	9/16

表2 平成25年度池田町作況ほの莖長(cm)及び着莢数(個数/m<sup>2</sup>) (上段25年、下段平年)

莖長	6月15日	7月1日	7月15日	8月1日	8月15日	着莢数	8月15日	9月1日	9月15日
	大豆	8.2	22.9	49.5	74.3		76.2	大豆	627.6
	6.1	13.2	30.9	58.2	71.3		257.4	402.6	493.6
小豆	3.6	4.9	13.9	35.7	54.9	小豆	205.6	379.3	409.7
	2.7	4.5	10.1	21.8	39.0		83.9	248.7	276.2
金時	6.7	15.6	39.0	45.8	47.1	金時	144.2	98.1	131.9
	4.2	11.2	29.0	44.2	44.8		134.1	120.3	119.2
手亡	5.8	10.3	37.2	45.0	57.4	手亡	285.1	248.6	248.6
	2.7	6.5	26.2	42.0	43.9		122.6	145.2	156.3

表3 金時規格毎発生比率 (上段25年、中段24年、下段23年)

区分	2格	TK(軽色流)	TN(色流)	発芽粒など
大正金時	23.7%	37.6%	31.3%	7.4%
	35.7%	31.1%	26.2%	7.0%
	5.6%	31.6%	51.8%	11.0%
福勝金時	33.8%	34.1%	19.7%	12.4%
	45.7%	24.8%	19.0%	10.5%
	15.5%	24.6%	38.2%	21.7%
金時平均	28.8%	35.9%	25.5%	9.9%
	40.7%	28.0%	22.6%	8.8%
	10.6%	28.1%	45.0%	16.4%

平成25年度産の豆類生産について生育状況や地区毎の実績をお知らせ致します。

たために作柄は進み、7月の開花期も全ての品種で平年よりも1週間ほど早まった状況でした。

開花期以降も順調に生育し、草丈はやや高め、莢数はやや多め、生育ステージもかなり前進して収穫期を迎えましたが、8月下旬から9月上旬には断続的な降雨があり、金時、手亡の品質に影響が出ました。小豆も莢数の多さから高

収量が期待されていましたが、莢の脱落が頻発し、最終的には平年並みの収量となりました。大豆は収穫時期の降雨により作業遅れが懸念されましたが、適期作業に努めて頂き、品質低下を最小限に留めることができました。

## 地区別生産状況

当JAの豆類品目別平均収量は小豆類(大納言含む) 4・0俵/10a、金時類3・5俵/10a、手亡類4・7俵/10a、大豆類4・3俵/10aとなりました。収穫時期の天候に悩まされた状況ではありましたが、農協への集荷は皆様のご協力により約33千俵余りとなりましたことをお礼申し上げます。誠にありがとうございます。本年の金時、手亡の買入は等外品では昨年と同様に規格発生比率に合った特例の買入方法とさせて頂きましたが、今後も生産者の皆様の所得の向上を目指し、有利販売に努めることはもとより、安定生産に繋がるための契約栽培の拡大に向けて取組んで参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

表4 平成25年産 地区別豆類反収

(俵/10a)

品目 地区名	大正 金時	福勝 金時	エリモ 小豆	きたのお とめ小豆	きたるまん 小豆	白小豆	大納言 小豆	絹手亡	姫手亡	福白 金時	光黒 大豆	普通 大豆
清見1	3.4	3.6	4.1	3.9	3.7			3.9	4.7	2.7	3.6	
清見2	4.3	3.3	4.0	3.8				4.1	4.9		4.7	
昭栄南	3.6	3.5	4.5	4.0	3.7		3.4					
昭栄	3.6		4.0					5.2				
昭栄北	3.1	3.4	4.0	3.9			3.3	4.5		2.8		4.6
東台1	1.7	3.8	4.1	4.0			4.2	4.8			3.3	
東台三愛	2.9	3.0	4.5								5.1	
東台幹線	1.3	2.6	3.2	3.7		3.5		3.9		2.4	3.4	
川合2	4.1	3.8	4.0	4.8				3.9	5.8	3.2	3.8	
様舞		3.4	3.9					5.7		2.5		
池田地区計	3.1	3.4	4.0	4.0	3.7	3.5	3.6	4.5	5.1	2.7	4.0	4.6
利別	3.4	3.6	3.9	3.8	3.5		4.6		4.9	2.7	4.1	
川合	4.5		4.9				5.1		5.5			
千代田東	3.1	3.4	4.1	4.9			4.5	4.2	4.4	2.8		
千代田南	4.1	3.4	3.5					5.0		2.3		
千代田北			3.3	3.3			4.2					
豊田1	3.4	3.9	4.0			3.5	3.8	5.1		3.3	4.2	5.1
豊田2		4.1	4.3					4.9		3.2		
青山	3.1	4.3	3.8			3.6	4.1	4.5		2.8	4.8	
利別地区計	3.6	3.8	4.0	3.5	3.5	3.3	4.4	4.7	4.9	2.9	4.4	5.1
合計	3.4	3.6	4.0	3.6	3.6	3.4	4.4	4.6	5.0	2.8	4.2	4.9
最高	4.5	4.3	4.9	4.9	3.7	3.6	5.1	5.7	5.8	3.3	5.1	5.1
最低	1.3	2.6	3.2	3.3	3.5	3.0	3.3	3.9	4.4	2.3	3.3	4.6

※ 廃耕となった圃場の面積も含んで計算しています

表5 道産豆類需給見込

※ホクレンの推算による

品目	25年産		26年産				
	次期繰越	在庫量	商品化量(推定)	期首	年間消費	次期繰越量	在庫量
小豆	634,000俵	8.8ヶ月	880,000俵	1,514,000俵	870,500俵	643,500俵	8.9ヶ月
大手亡	47,000俵	5.8ヶ月	90,700俵	137,700俵	96,900俵	40,800俵	5.1ヶ月
金時類	84,800俵	5.6ヶ月	174,200俵	259,000俵	182,100俵	76,900俵	5.1ヶ月
光黒大豆	126,000俵	17.2ヶ月	64,500俵	190,500俵	90,400俵	100,100俵	13.3ヶ月

雑豆の需給状況

◇小豆…輸入物も含めた全体消費は依然として厳しい環境が続いており、道産小豆も本格的な需要回復には至っていません。安定供給により需要の確保、拡大を図るため、26年産では作付を維持し、一定程度の繰越をもつ必要があります。また、ユーズーからはエリモ小豆が減少し、きたるまんの作付が増えていることを心配される声も聞こえています(きたるまんは沖積土壌では難しい品種と言われています)。

◇大納言…在庫量が大きく増えており、作付抑制を求められている状況です、小豆との価格差が大きいため、ユーズーが使用を切り替えているようです。

◇手亡…製品供給量が大きく不足している状況にあり、作付増加が強く希望されています。国産の減少は輸入の増加に繋がる恐れがあります、国産を大切にすることをユーズーに安定供給を継続することが、将来を考えたとき必要になると考えます。

◇金時…色流れ・発芽・腐敗粒の発生により小袋、煮豆用途向けの上位規格品の供給が非常に不足しています。繰越在庫は副産物一定品が中心規格となっています。面積増加による安定供給体制の構築が急務となっています。

◇黒大豆…年間消費量は減少傾向。25年産は指標を上回る作付面積となり、次期繰越量は増加する見込み。作付面積の抑制による需給調整が必要とみられています。

平成  
25年度

## 部会長研修報告

## 植物工場、とらや御殿場工場、二宮尊徳生誕の地を訪ねて

平成25年度部会長研修が、平成25年11月26日（火）から11月29日（金）までの3泊4日で、曾根輝一会長以下9名（事務局含む）の参加で実施されました。

11月26日（火）の初日は、朝1便で帯広空港を出発し、羽田到着後、息継ぐ暇なくバスに乗車。車中で昼食を摂りつつ、一路、最初の視察先である神奈川県秦野市へ直行しました。

(株)グランパ  
ファーム秦野

グランパファームは、液肥により葉物野菜を水耕栽培するハウス栽培、いわゆる太陽光・人口光併用型植物工場です。

到着後、ファームの概要を事務所内でDVDなどを

使用し説明を受け、本ファームは、農業人口の減少、天候不順による不作、自給率の低下、地方の過疎化など様々な問題を抱えた農業を活性化するために設立されました。

また、本ファームは、葉を食害するアブラムシの天敵昆虫（寄生蜂）で防除する生物的防除を行っております。

グランパファームのハウスは、直径20メートルの円形に作られた栽培槽に合わせた直径29メートルの円形状になっています。しかも、ドーム内には柱がない設計となっており、気圧で膨らませるエアードーム型です。出入りの際にはドーム球場のような風を感じました。さらに、強度としては30セ

ンチの降雪にも耐えうる樹脂製のブルフィルムです。

本ハウスのシステムについては、ドーム内の気温や液肥などは、勿論自動制御されており、ドーム内の育苗槽で育成した苗を、栽培槽の中心から移植します。

中心部分から移植した苗は、モーター駆動により円の外側に移動しつつ育成され、同時に株間は徐々に広がりながら移動し、外周到達時が収穫適期となるよう設定されており、外周にて収穫作業を行います。

直径20メートルの栽培槽には、作物にもよりますが、移植から収穫まで約40日とすると、約15000株を移植し、収穫は1日約400株は可能とのこと。苗の育成に伴う株間や、



ドーム型ハウスの強度を確認しています

移植から収穫までの育成期間が計算されており、作業も非常に省力的であると感じました。

収穫された、リーフレタスは、葉を1枚ずつちぎって真空パック、これを段ボールに入れ冷蔵貯蔵されています。真空パックすることで野菜を傷めず、コンパクトとなり流通は容易となったとのこと。

将来的には、日本の安心安全な食品として、輸出を視野に入れているとのことでしたが、やはり、価格（コスト）については、露

地ものと比較しても高く、主な販売先は大手小売店や東京デイズニールランドで、露地ものとの差別化を図って販売しているとのことでした。

ちなみに、このシステム（エアードームハウス+機械を含む）1棟は約3500万円と高額ですが、現在の収益性で考えると、2棟あれば営農可能とのこと。

また、昨今は、北海道からの視察も多いとのことですが、北海道のように冬場の気温や降雪、消費地からの距離などを考慮すると、採算ベースに乗るには、まだまだ課題が多いとのことでした。

## 小田原市尊徳記念館

(株)グランパファーム秦野を後にして、同じく神奈川県小田原市の尊徳記念館を視察しました。

小田原市は、二宮（金次郎）尊徳の生誕地栢山（かやま）に近く、報徳仕法が広く行われ

た小田原藩の城下であり、小田原市が運営している記念館です。

尊徳記念館では、ボランティア解説員の秋山さんから、尊徳の足跡をアニメで上映、その後、尊徳の生い立ちや生活振りが記された古文書・資料など館内を案内して頂きました。また、資料館の敷地内には、薪を背負った尊徳像とは異なり、報徳仕法を行っていた大人の尊徳像が敷地内に立っており、尊徳の250年前の生家もご案内頂きました。協同組合精神の源流ともなる報徳精神の発祥の地、小田原市尊徳記念館では、秋山さんの熱意もあり、閉館時刻ギリギリまで説明を頂きました。

尊徳は、父母が死去し一家が離散後も8年で二宮家を再興し、その後その報徳仕法を日本各地の村々に広め復興に努めました。幕臣となった後も、農民や農村の振興のために、報徳

の教えの基本ともなる勤勉、分度、推譲について教えを広めつつ、自身も実践し死去する最後まで、復興の現場に立っていたとのことでした。

先日、行われた農協での報徳研修や資料で学んだ二宮尊徳でしたが、今回の研修では、尊徳の偉業や生身の尊徳に触れるような研修となりました。

### (株)虎屋御殿場工場

研修2日目は、静岡県御殿場市、富士山麓の麓にあ



大人の二宮尊徳像の前で撮影

る(株)虎屋御殿場工場を視察しました。

御殿場工場は、平成5年に建設され、全国に3工場ある虎屋の主管工場で、富士山の伏流水を利用し、主に、羊羹、季節の羊羹、最中を製造しており、当農協が契約栽培している福白金時を使った羊羹もこの工場で使用されています。

視察時には、虎屋本社の星野資材課長や、御殿場工場長を含め、多くの職員の方に応対して頂きました。

視察は、製造工程をガラ又張りの見学ルートを案内した後、福白金時を含め、高品質な十勝池田町の豆の生産・供給について意見交換する場面もあり、今後もより一層、生産者・農協・ユーザーが手を携え、知恵を出し合い、皆が満足できるような契約栽培として行きたいとの意見が出されました。

その後、御殿場市内の直営店「とらや工房」に場所



御殿場工場を視察

を移し、昼食と美味しい和菓子を頂き視察を終りました。

その後、本年、世界遺産となった日本の富士山の5合目(標高2305メートル)まで、一気に登頂。勿論、バスでの移動ですが、5合目付近は当日は晴れてしたが、気温4度と低く、強風が吹き、体感気温は厳冬の十勝並みで、風が強く立っているのもやっこという状況でした。

その後、富士山の反対側の山梨県甲府市に宿泊「ほうとう」料理に舌鼓、翌朝、

武田神社を訪れ、最後の宿泊先となる東京へ。

東京では、浅草寺や東京スカイツリー展望台で東京のみならず関東平野を一望し、横浜中華街で飲茶をとり羽田空港へ帰路に着きました。

今回の部長研修は、日程の都合上、初日から2日目まで休む暇なく3か所を視察、後半は、世界遺産の富士山(5合目)や東京スカイツリー展望台を堪能などハードなスケジュールとなり、さぞお疲れではなかったかと思えます。

しかし、今後の農業の将来を考える契機ともなる植物流工場、御殿場ではユーザーの求める農産物を安定的に供給することの大切さや、協同組合精神の源となる報徳精神の一端を体感・実感するなどとても充実した研修となり、参加頂いた部長の皆様、大変ご苦勞様でした。

(記事・管理部長 大塚 節)

農産部



# 青果物説明会を開催!



12月17日(火)に青果物説明会を開催致しました。

この説明会は青果物の作付振興を目的に、当JAで現在取り組んでいる青果物の生産状況や販売活動、部会の取組を紹介し、新しい仲間づくりのきっかけとなるように昨年度より行っています。

今回は第1回目としてネバリスター、たまねぎ、ゆりねの3作物の紹介とヨモギの取組を報告しました。農産部からは担当者が作物毎の概況説明を行い、引き

続きご出席くださいま

した部会長(長いも部会・糊澤部会長、たま

ねぎ部会・小原部会長、ゆり根部会・福田部会長

が、生産者の視点から作物の特徴や作業の詳細、部会活動についてPR致しました。なかでも、新規生産者への部会としてのバックアップ体制のお話は大変内容が濃く、

作業、機械、種子などに関する心強い支援を各部会で準備している状況が伝わったと思います。

また、青果物を導入する上で重要な「労働力確保と初期投資」に関連して、営農部から人材派遣の概況、金融部から



ゆりねの紹介をする三村さん

フルスペースクローンやスナップアップローン等の融資商品を紹介致しました。

当日は年末の多忙な時期ということもあり、出席者は多

い状況ではありませんが、鈴木組合長、各部会代表者からも「常に情報を発信し、今回をスタートに盛り上げていきましょう」と青果物振興に向けてJA、生産部会の意思統一がなされました。

「農業は経済活動である以上は稼ぎを上げることは前提ですが、自分の生産物を待ってこれているお店や消費者がいることは何よりのやりがいです」という言

葉が長いも部会・糊澤部長からありました。青果物導入による農業情勢の変化への対応はもろろんですが、これまで培ってきた「十勝池田町」という産地力を更に発展させるためには、新規生産者の力が必要不可欠です。2月には今回の内容に馬鈴薯、カボチャ、にんにくを追加した第2回目の説明会の開催を予定しております。日程が決まり次第ご案内致しますので、奮ってご参加頂きたいと思っております。

(記事・農産部農産課 岡本富之)



組合長の挨拶



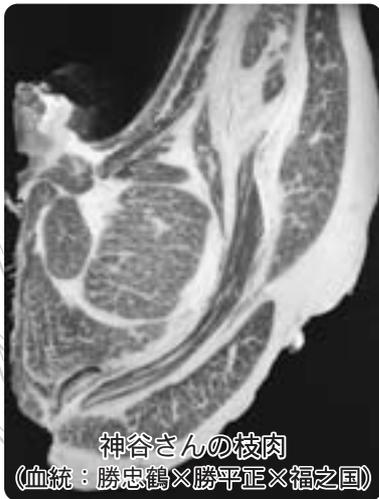
部会長との直接の意見交換

## 畜産課

北海道枝肉共励会で  
2年連続「優良賞」

11月30日、ホクレン主催「H25北海道枝肉共励会」が、㈱北海道畜産公社道東事業所において開催されました。

この共励会は年1回開催されており、道内各地から



神谷さんの枝肉  
(血統：勝忠鶴×勝平正×福之国)

選抜されたおよそ30ヵ月齢の黒毛肥育牛が116頭出品され、その肉質を競いました。

当JA管内からは2頭の枝肉が出品されましたが、神谷雅之さんの去勢牛「真矢号」がA5・枝重522kg・BMSNo.9の評価で見事、優良賞を受賞しました。

なお、最優秀賞にはJA北石狩管内から出品された枝肉が選ばれました。(A5・枝重514kg・BMSNo.11)

上位入賞は何れも素晴らしい枝肉で、年々全体のレベルが向上する中、当JA管内からは昨年度の初入賞に続く快挙となり、今後に弾みがつく結果となりました。

(記事・畜産部畜産課 米川 武)



褒章授与式の様子

## 畜産課

黒牛部会  
婦人視察研修

12月5～6日の2日間、和牛生産組合黒牛部会による婦人視察研修が開催されました。

1日目はホクレン南北海道家畜市場(安平町)にて肉牛市場のセリを見学

しました。十勝の市場とは一味違う雰囲気・客層のなか、全国的な素牛不足の影響などにより、去勢平均586千円(税込)と非常に高値で取引されておりました。

2日目はJAとうや湖管内で繁殖経営を行っている野々村牧場を視察させていただき、飼養管理や血統・交配についてなど、大変丁寧にご説明いただくことができました。

同牧場は畑肉複合経営を行っており、当JA管内と経営規模も似ていることから、馬小屋を利用した低コスト施設など参考になる点が多く、有意義な研修となりました。

(記事・畜産部畜産課 米川 武)



野々村牧場見学の様子

## 女性部

## 道内研修旅行

12月1日(日)～3日(水)にかけて、女性部では函館方面へ道内研修旅行を実施致しました。

今回は酪農・水産業社での研修を行い、1日目は七飯町の「久保田牧場」を訪れました。久保田牧場は後継者が戻ってくるのを機に、規模拡大を行い現在は搾乳牛200頭と加工・直売所を設け経営しています。加工品では、アイスクリームやチーズを製造しており、お話の最中には「カマンベールチーズ」等を御馳走させていただきました。

夜には、毎年12月1日～25日まで函館で開催されている、「2013はこだてクリスマスファンタジー」のクリスマスツリーの点灯式と花火を観て、1日目は終了しました。

2日目は、いか塩辛や松前漬の製造を行っている「株式会社布目水産」を訪れ、製造工程の説明をして頂きました。また、布目水産では商品製造時における衛生管理や、クレーン対応に特に気をつけているとのお話もお聞きしました。

最終日は、北海道昆布館での製造工程の見学・新千歳空港でのショッピングをして帰路につきました。

参加された部員の皆さん、大変お疲れ様でした。

(記事・営農部営農課 遠藤由梨)



旧函館区公会堂での集合写真

## 全道JA青年部大会の様子



## 青年部

第62回  
全道JA青年部大会

平成25年12月5・6日、札幌パークホテルにおいて第62回全道JA青年部大会が開催されました。全道から600名を超える参加があり、当青年部からは部長以下3名が出席いたしました。

研修として、分科会ではテーマごとに6つの会が置かれ、「北海道米のブランドについて」「道産小麦の展望と小麦を巡る情勢について」「全国から主産地として期待される北海道和牛」「農業に役立つ気象情報とその使い方」「野菜の消費動向と品種開発について」「JAグループとJA青年部活動について」と題した内容で各々討議が行われました。記念講演では野口観光株式会社・代表取締役社長の野口秀夫氏に「ホテル経営からみた農業経営」と題してご講義を頂きました。

また発表では「青年の主張大会」「活動実績発表大会」「1分間CMコンテスト」等に加え、本年は農業青年および青年部のイメージアップを図るための情熱を持った人材を発掘するべく「純農Boyオーディション」も開催されました。残念ながら十勝勢の入賞は成りませんでした。北海道代表に選出された各発表者や作品が大いに活躍される事が期待されます。

貴重な講演や数少ない管外JA青年部と接する機会もあり、参加部員には大変有意義な内容だったと思います。

(記事・青年部長 守内拓司)



## 青年部

## 2JA青年部 女性交流会

11月30日（土）に池田・高島両農協青年部による2JA青年部女性交流会が開催されました。参加者は独身青年部農業者11名と管内女性11名で帯広市内の東急インホテルで行われました。

高橋部長（高島青年部長）の陽気な乾杯の挨拶で場を盛り上げ開会し、女性と1対1の自己紹介タイムを行いました。その後はフリータイムで会話が徐々に弾み、和気あいあいとした雰囲気楽しい時間が過ぎていきました。2次会では十勝ワインの景品が用意されビンゴゲーム大会もあり1次会以上の盛り上げを見せておりました。

農協や役員スタッフ、沢山のご協力のもと素晴らしい交流会が行われたと思います。これが、素晴らしい出会いのきっかけになり、次回より充実した交流会を開催していければと思います。

（記事・青年部書記長 永原和敏）

## 管理課

## ドキュワークス・スキャナー研修開催

12月3日（火）に農協本所大会議室にて、「ドキュワークス及びコピー機スキャン機能操作研修会」を職員対象に開催致しました。コピー機のスキャン機能を使い、紙文書をデータとしてパソコンに取り込む操作方法の説明や、ドキュワークス（文書管理ソフト）を使用して、エクセルやワードなどの異なる形式のデータを一つにまとめて会議文書を作成する流れを、実際にパソコンで操作しながらの研修となりました。今回の研修を終えて、利用する職員が増加し、今後もスキャン機能やドキュワークスを活用して、事務の効率化に加え、コピー用紙の削減や経費の圧縮に努めて参ります。



スキャン機能の説明をする遠藤課長

（記事・管理部管理課 荻 悠哉）

## 施設課

## 御座候向け大手亡の選別が始まりました



御座候向け大手亡の選別

9月より秋に収穫された各種の豆類の調整作業を3か所ある調整ラインで行ってまいりました。今月より大手亡の調整・選別作業が始まりました。9月～10月中には、貯蔵害虫対策として本年より新設されました冷凍施設にて冷凍処理を行い、その後貯留ビンで保管をしてきました。

選別作業は、機械で粒の大きさや豆の形、色合いなどを選別し、手選別で仕上げをしています。その中でも除去が難しい発芽粒に細心の注意を払い作業を進めております。出来上がった製品は、ストレージ倉庫に搬入し、温度、穀水分などの品質を調査しながら翌年まで保管されています。

選別作業がどのように行われているか興味のある方は、是非、農産センターの穀類調整工場に足を運んで頂ければと思います。

（記事・農産部施設課 上田宝文）

式典の様子



## 女性部

## 十勝地区女性協議会 創立60周年記念式典

12月17～18日にかけて、十勝川温泉ホテル大平原において十勝地区女性協議会創立60周年記念式典が開催されました。十勝地区の女性部員約250名が集まり、当農協女性部からは三役・各支部長が出席いたしました。

式典では歴代の地区会長、森喜美江さん（9代会長）・河田さえ子さん（10代会長）の2名に前塚会長より感謝状が手渡されました。単組紹介では、さらべつ・十勝高島・幕別町・士幌町の5単組が、女性部活動の概要を紹介し式典は終了しました。

夜には祝賀会が行われ、当女性部もアトラクションやカラオケなどで大いに会場を盛り上げ、他女性部員との交流を深めていました。

2日目の記念講演では、池田町・農村女性の日でも講演された、音楽療法士の高本恭子氏が「音楽がくれた幸福（しあわせ）ホルモン」と題して講演され、音楽療法や更年期障害・うつ病についてお話しをして頂き閉会となりました。

参加された女性部三役・各支部長の皆さん大変お疲れ様でした。（記事・営農部営農課 遠藤由梨）

## 青年部

## 冬期研修会

12月10日（火）農協本所大会議室におきまして、青年部員29名が参加した冬期研修会を実施いたしました。

今回は、金融の方からのクミカン制度の理解・運用についてと、青年部のポリシーブックについての2部編成で行われました。

クミカン制度の仕組みや、上手な運用の仕方など様々なことを教わり、クミカン制度とはJAと組合員をつなぐだけでなく、JAの事業に深く繋がっていることや、制度のメリット・デメリットを改めて学び、今後の営農へうまく役立てればと深く感じました。

また、青年部のポリシーブック作成にあたりグループディスカッションをおこないました。テーマは『今後の青年部を良くするには何が必要か』で、参加部員を複数班に分けて意見の出し合いを行いました。その中で「部員間等の交流を大事にしたほうがいいのでは」や「青年部で農作物の販売を」など様々な意見を班ごとに発表し、部員一人一人が青年部をよりよくしていくために再認識させられました。

今回の研修は、各部員の身近なところから少しずつ良くしていこうと思わせる内容だったと感じています。

（記事・青年部支部長 寺井宏行）



グループディスカッション形式の意見交換

# 今冬、ご家庭でも節電を!

～ 酪農畜産業などへの影響回避 ～

## 1. 今冬の節電目標【2010年対比、6%以上の節電を!】

「電力需給に関する検討会合」におきまして、計画停電を含む非常事態を最大限回避するため、北海道では、2010年と比較して6%以上（昨冬は7%以上）を節電目標が示されました。

北海道の電力需要は、暖房・融雪機器の稼働により、電力使用量が大きくなる冬期に入り更に厳しくなります。

電力需給が最も厳しいことが見込まれるのは、下記の期間及び時間帯です。

### 電力需給逼迫が予想される期間及び時間帯

12月9日(月)～3月7日(金)の平日 午後4時～午後9時



## 2. 節電の必要性【厳冬期の停電は、酪畜産業・人命にも影響します】

この時期、北海道では圃場での農作業はありませんが、酪農・畜産経営においては、毎日の搾乳に欠かせない搾乳機器・バルククーラー、家畜への給餌作業、更には、秋に入庫された農産物の調整を始め青果物の選別・予冷施設の稼働時期でもあり、十勝の農業にとって電力の供給は必要不可欠です。

更に、厳冬期となる北海道での計画停電による電力供給が停止すると、医療、暖房設備も停止し、ご病人・お年寄り・子供など生命の危機にも繋がります。

## 3. JA・JAグループ北海道節電対策【JAでは2010年比11%節電達成】

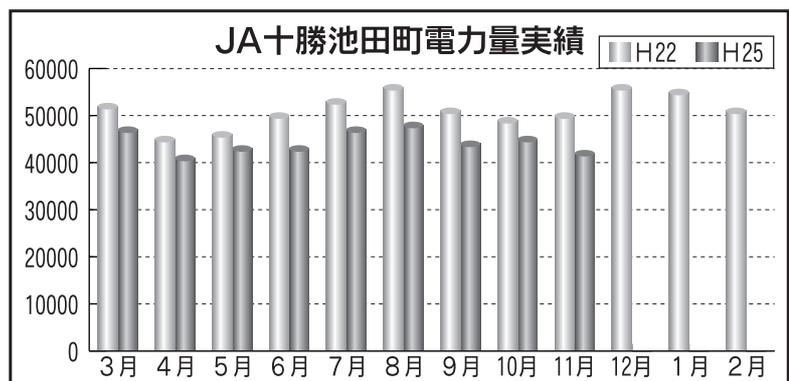
万が一にも計画停電とならないよう、JA及びJAグループ北海道は昨年に引き続き、平成22年度対比6%以上の節電対策に取り組んでおります。

当JAでも、照明の消灯・蛍光灯の間引き・電化製品の待機充電カット・パソコンの省電力モード設定・自動ドア開放など各種節電対策を実施しております。

その結果、当JAの電力使用量実績は、平成22年対比89%（3月～11月累計）となっており、毎月7%～16%程度の節電を達成しております。（農産センター施設を除く）

当JAでは今冬も、できることから節電を行い6%以上の節電に取り組んで参ります。

尚、引き続きご来所される組合員の皆様並びにお客様には、ご不便をお掛けすることもございますが、当JAの節電対策にご理解・ご協力頂きますようお願い申し上げます。



## 4. 組合員の皆様へのお願い「ご家庭でも節電を！」

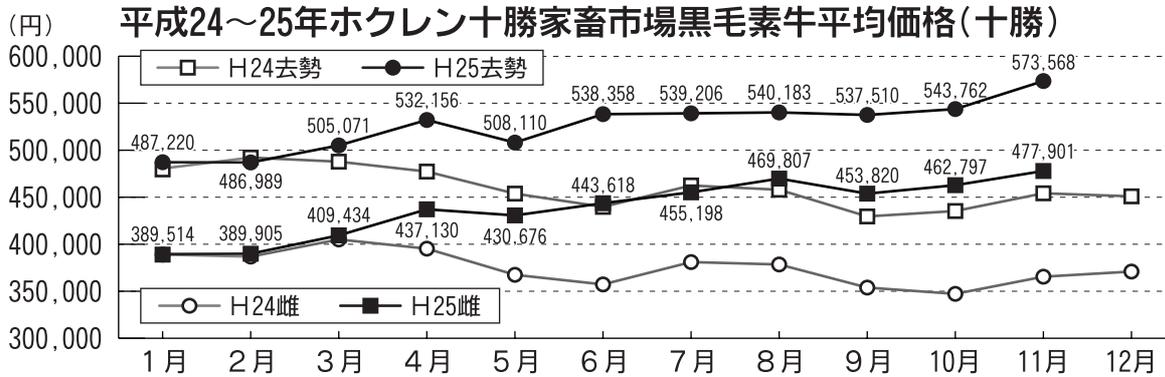
㈱北電が配布するパンフレット記載の節電方法に取り組んだ場合、標準的なご家庭の例では、電気料金のご負担が1月あたり15%程度軽減されるとのこと。

是非、組合員の皆様のご家庭でも「今冬6%以上の節電」にお取り組み頂きますよう重ねてお願い致します。



# 畜産部通信

畜産部  
畜産課



## 11月黒毛素牛出荷区分別成績

【金額(円)】

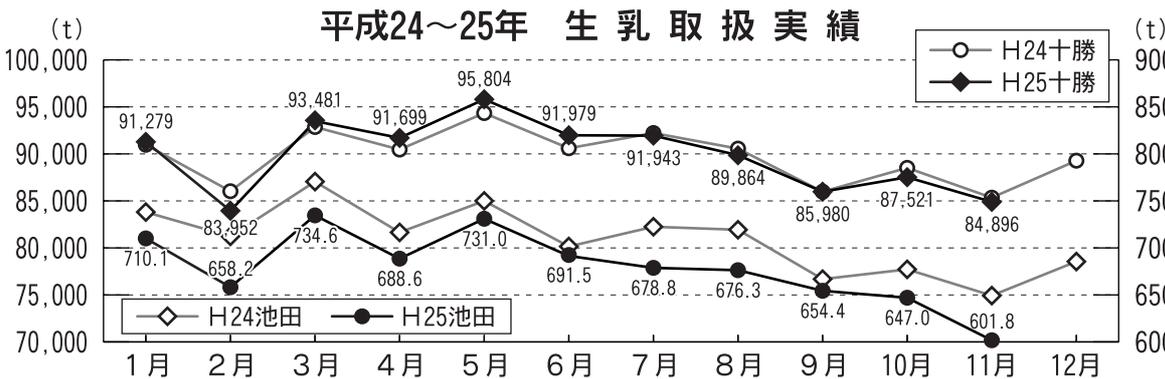
去勢	池田	十勝	雌	池田	取引頭数	平均価格(税込)	参加率・認定率
去勢	池田	和牛素牛	雌	池田	607	573,568	
		マニュアル参加牛			384	579,288	63.3
		マニュアル認定牛			116	615,173	19.1
去勢	池田	和牛素牛	雌	池田	38	573,936	
		マニュアル参加牛			35	574,620	92.1
		マニュアル認定牛			14	592,725	36.8
去勢	十勝	和牛素牛	雌	十勝	515	477,901	
		マニュアル参加牛			293	481,592	56.9
		マニュアル認定牛			46	615,173	8.9
去勢	池田	和牛素牛	雌	池田	34	497,824	
		マニュアル参加牛			26	499,194	76.5
		マニュアル認定牛			5	523,950	14.7

## 11月ホクレン十勝枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
9日 16日 30日 ※	黒毛去勢	A-5	2,210
		A-4	2,009
		A-3	1,839
	黒毛メス	A-5	2,258
		A-4	2,078
		A-3	1,829
	F1去勢	B-3	1,309
		B-2	1,220
	F1メス	B-3	1,305
B-2		1,145	

※全道枝肉共励会(黒毛)



## 11月ホクレン十勝乳牛市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
1日	乳牛育成	551	280,043
5日	乳牛初妊	354	505,148
	乳牛経産	72	288,079
21日	乳牛初妊	629	509,170
	乳牛経産	90	303,788

## 11月十勝中央家畜市場

【金額(円)】

区分	平均価格(税込)
乳牛オス初生	31,739
F1オス初生	180,355
F1メス初生	121,671
廃用牛	136,387

# 各部署職員紹介



## 購買部 生産資材課

いつも生産資材課をご利用頂きありがとうございます。職員一同、明るい笑顔で皆様のお役に立ちたいと思っています。今後もたくさんのご用命をお待ちしております。

### 斎藤 喜一 職員

今年も、仕事・ゴルフにあけられる様に？  
一年よろしくお祈いします。

(後列左から1番目)

### 福田 明江 職員

こんにちは。自称、まだミス・資材課の福田です。  
あつあつ鍋に、よく冷えたビールにはまっています。  
今日の一杯、明日への活力！  
本年も資材課をごひいきに!!

(後列左から2番目)

### 多田 賢一 職員

あけましておめでとうございます。  
今年は今井職員の影響を受けバイクの免許取得を計画中の多田です。  
生産資材課に勤務して8年目となりました。本年もよろしくお祈いします。(後列左から3番目)

### 今井 敬貴 職員

いよいよ厳冬期を迎え身も心も凍える毎日ですが、冬場の運動不足の解消も兼ねて今年久しぶりにスキーをやると思います。先日、物置から引っ張り出したスキー道具も流石にモデルの古さは隠せませんが、昔を思い出して積極的(ホドホド)に冬を楽しもうと思います。(前列左から1番目)

### 山久保 栄治 課長

生産資材課と指導チームの二足のワラジで足がもつれ気味ですが、皆に助けられています。久々に子供や仕事仲間からスキーやスノーボードに誘われました。転ばぬように色々な意味で足腰を鍛えなければと思うこの頃です。(前列左から2番目)

### 鈴木 則宏 職員

就職してから始めた趣味の「ダ イビング」も今年で16年目となり長続きしていますが、15年前に作ったウエットスーツがいつ破けるかドキドキしながら潜っています。(前列左から3番目)

☞ 次号は農産部施設課を紹介します!!

## 理事会の動き

### 第 10 回

〈平成25年12月26日〉

#### ★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の加入及び脱退について
- (2) 豆の集荷状況について
- (3) 共計品の精算について
- (4) 組合財務の現況について
- (5) 余裕金運用状況報告並びに保有目的区分について
- (6) 11月末基準仮決算について
- (7) コンプライアンスプログラムの取組状況について
- (8) 内部審査及び内部監査報告について

#### ★ 議 案 ★

- (1) 組合員の相続による出資金持分譲渡、新規加入並びに減口の承認願いについて
- (2) 組合員資格変動並びに出資金持分減口承認願いについて
- (3) 自治監査に対する協議回答書(案)について
- (4) 反社会的勢力等への対応に関する基本方針・規程の一部改正について
- (5) コンプライアンスマニュアルの一部改正について
- (6) 役員選任実施日程について
- (7) 役員推薦委員の選任について

#### ★ 協議事項 ★

- (1) 総会までの行事日程について
- (2) 平成26年度重点項目(案)について
- (3) 平成26年度固定資産取得計画(案)について
- (4) 冬期地区懇談会の開催について
- (5) 営農貯金取扱要領(案)、女性部貯金取扱要領(案)について
- (6) 十勝地区農協青年部協議会海外研修視察への参加について
- (7) 年末組勘整理の見込みについて

## 今月の1枚



海に浮かぶツリー〜カナダからの贈り物〜

今月の1枚は、女性部道内研修旅行で訪れた「2013はこだてクリスマスファンタジー」のツリーの様子です。

このツリーは函館の姉妹都市である18,000km離れた、カナダのハリファックスから毎年贈られているツリーで海の上に浮かんでいます。

カラーで載せれないのが残念なくらい綺麗で、とても幻想的でした。

年々1年が早く感じてきており、早くも平成26年となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

私は年始に実家の名寄に帰省しまして、雪の多さを改めて感じさせられております。実家に帰ると1年ぶりのスキーをするのですが、意外と体が滑り方を覚えているものでスイスイ滑れたりもします。しかしながら、怪我だけはしないように無茶をせず安全第一で滑ることを心がけております。

さて、本年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

(武田)

